

東双みらい製造の設立について

2023年10月31日



東双みらい製造株式会社

1. 廃炉産業集積の全体像（イメージ）

【廃炉事業の基本的な流れ】



【主な実施個所】

これまで

東京 / 海外

浜通り（構内）

未実施

将来

原則として、浜通りで一貫して実施

※東京電力HDホームページ資料より引用

2. 廃炉産業集積の全体像

- これまで福島県外企業(東京や海外)へ発注していた廃炉の中核技術・製品について、将来的に浜通り地域で開発・製造し、地元経済の中長期的な柱とすることを目指す
- その実現に向け、東京電力が主体となり、高度技術を持つ福島県外企業の誘致を図ると共に、地元企業との緊密な連携を図り、地域の雇用創出、人材育成、産業・経済基盤の創造等に貢献

工程	設置を検討している廃炉関連施設	
開発/設計	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料デブリ取出しエンジニアリング会社 ✓ 燃料デブリ取出しシステムの研究開発/設計を行う共同事業体 	<ul style="list-style-type: none"> ● 放射性物質分析・研究施設 ✓ 今後の廃炉に必要な研究開発や、幅広い試料の分析を行う施設
製造	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃炉関連製品工場 ✓ 使用済燃料輸送貯蔵兼用キャスク(以下「キャスク」)や燃料デブリ保管容器(以下「デブリ容器」)を製造する共同事業体(当面は福島第二向け金属キャスクを製造) 	
運用	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料デブリ取出/メンテナンス設備 ● 海洋放出設備(処理水対策) ✓ 政府方針達成にむけたALPS処理水希釈放出設備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 協力企業棟 ✓ 福島第一管理区域内の協力企業棟整備(休憩所の整備) ✓ 福島第二協力企業棟整備(使用済燃料保管施設の設置に伴い構外に移転)
保管	<ul style="list-style-type: none"> ● 福島第一使用済燃料保管施設(増設) ● 福島第二使用済燃料保管施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 福島第一廃棄物保管施設(増設) ● 燃料デブリ保管施設
リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ● 金属溶融施設 ✓ 福島第一の金属ガレキを除染・減容化するために溶融する電炉 	

3. 東双みらい製造の概要

- ▶ 共同事業体設立に関する東京電力と日立造船との基本合意について、2022年4月に公表、その後、協議を進め、10月20日に東双みらい製造株式会社を設立

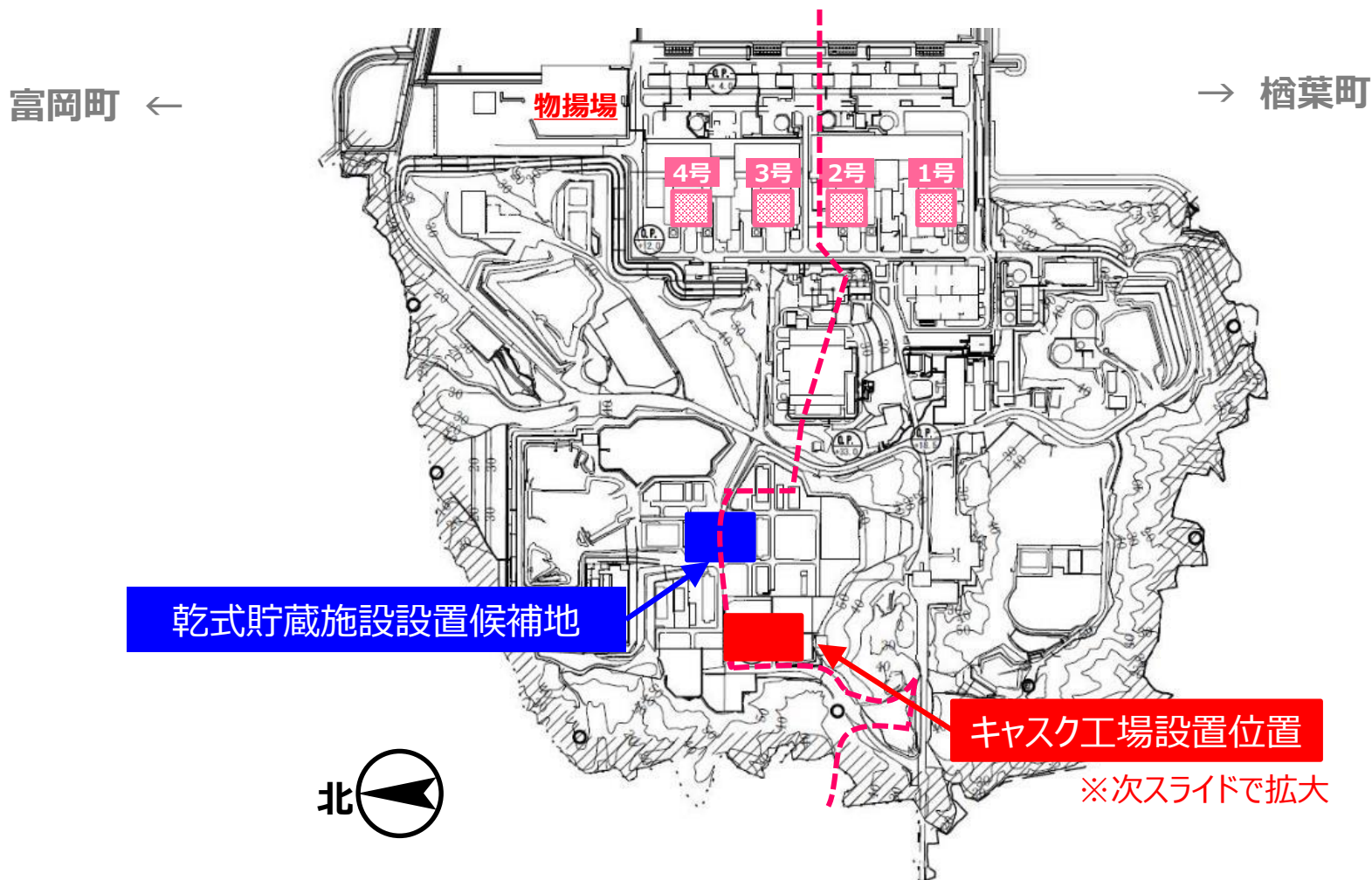
会社名	東双みらい製造株式会社
所在地	福島県双葉郡楢葉町大字山田岡字美シ森8（Jヴィレッジ内）
代表者	磯貝 智彦
設立日	2022年10月20日
工場設置場所	福島第二原子力発電所敷地内（現在の西門駐車場）
資本金	15億円（東京電力HD：67%、日立造船：33%）
従業員数	数十名の予定（設立時約10名）
事業内容	輸送・貯蔵兼用キャスクや燃料デブリ保管容器の製造、販売 ※当面は福島第二向けキャスクを製造
工場 スケジュール	<ul style="list-style-type: none">2022年度：基本設計、詳細設計2023～2025年度：工場建設2025年度：2F向けキャスク製造開始2027年度：2F向けキャスク初号機納品

4. 経営理念

Purpose パーパス	東双みらい製造株式会社の存在意義 廃炉製品製造を通じて廃炉作業と福島復興に貢献する
Mission 使命	東双みらい製造株式会社が社会において果たすべき使命 「みらい」につながるモノ作り
Vision 将来像	ミッションを実現するためのあるべき姿 地元福島に根差した、高度な技術と品質を有する企業
Value 価値基準	社員が共有する価値 常に考え、学び、行動することで人と技術を成長させる

5. キャスク工場建設位置

- 当面福島第二原子力発電所（2F）の使用済み燃料用のキャスクを製造することを前提に、2Fの立入制限区域外の協力企業駐車場に建設予定



6. キャスク工場全景

